

<p><b>22 日</b> <b>(日)</b></p> <p>エゼキエル <b>27章</b></p>	<p>「諸国の民の商人は口笛を吹いてお前を欺く」(36 節)。 強さや豊かさに魅了され、に寄りすがった国々は、テイルスと共に消えていく。主のみ言葉ではなく、人の言葉、経験、力に繋がりたくなる私たち。不安定な土台を神さまの土台と勘違いしてしまう弱さを自覚し、赦された罪人として主に委ねたいと願います。</p>
<p><b>23 日</b> <b>(月)</b></p> <p>エゼキエル <b>28章</b></p>	<p>「お前は自分の心が神の心のように思い込んでいる」(6 節)。人の知恵、力、富を得、自分が神と同じ存在のように思いこむ罪。その罪を主が示される。そして、その罪を主が裁かれる。その裁きは、神の聖さを私たちに示してくれる。主の思いを、どのように私たちは聞くことができるのでしょうか。</p>
<p><b>24 日</b> <b>(火)</b></p> <p>エゼキエル <b>29章</b></p>	<p>「四十年が終わると、わたしは散らされていた民の間からエジプト人を集める」(13 節)。大国エジプトのその繁栄は、40 年間閉じられる。高みは低くされる。主の裁きを体験し、主の前に謙虚さをもつ時、その民にもう一度共同体としての姿を取り戻してください。私たちの姿は健全なものでしょうか。</p>
<p><b>25 日</b> <b>(水)</b></p> <p>エゼキエル <b>30章</b></p>	<p>「その日は近い。主の日は近い。」(3 節)。力や恐怖、富で人を縛る民は、同じ「力」で主の報いが下る。主の裁きの時、私たちは泣き叫び、災いだと叫ぶ。しかしその時にこそ、主の憐れみと正義と出会うことができる。「力」によってではなく、「愛」によって隣人と、主と出会うことができるのだろう</p>

<p>26日 (木)</p> <p>エゼキエル 31章</p>	<p>「その枝はすべての谷間に落ち、若枝は切られて地のすべての谷を埋める」(12 節)。主が与えてくださる「美しさ」「力」を我が為に用いる時、主はそのすべてを切り落とされる。その責任は私自身の内にある。罪を示してくださる主を見つめる私とされたいと祈り求めます</p>
<p>27日 (金)</p> <p>エゼキエル 32章</p>	<p>「人の子よ、顔をアンモン人に向けて、彼らに預言せよ」(2節)。アンモン、モアブなど、イスラエル周辺国への裁きが語られる。「復讐とあざけり」。民族ルーツの近い国同士の関係は難しい。私たちの身近な関係にもそのままあてはまるのではないか。隣人との間に響く、主の声を聴く者とされたい。</p>
<p>28日 (土)</p> <p>エゼキエル 33章</p>	<p>「わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。(中略)わたしの警告を彼らに伝えねばならない」(7 節)。見張りは剣が来るのを一番初めに知る。見張りはその危険を民に伝える義務がある。口を閉ざし、その責任を放棄する時、主はその見張りの罪をとがめる。私たちに与えられた義務は何だろうか</p>
<p>29日 (日)</p> <p>エゼキエル 34章</p>	<p>「わたしは失われた者を尋ね求め、追われた者を連れ戻し、傷ついた者を包み、弱った者を強くする」(16 節)。羊毛を身にまとい、肥えた羊の肉を食べながら、群れを養おうとしない「偽羊飼い」への厳しい批判が痛い。主イエスこそ、羊一匹一匹を尋ね求め、愛し養う「真の羊飼い」として来られた方。</p>